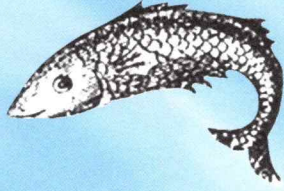


# 泥人魚

歩いてる ヒトか魚か  
分らぬ女が……



【物語】

埋め立てに行かず、ただ一人町を去った漁師・螢が、消えた親友・二郎を探して暮らすのは、二郎のかつての師、詩人・伊藤静雄の営むブリキ加工店。残る約束の半分を悔やむ眼に代わって、どうにか決着をつけようとしていた。そして、やすみもまた、眼のため、残りの約束を果たすべくその店を訪れるのだった。

諫早湾の記憶宿る義眼が導かれる闇の行方を知らないままに、二人が逢げる二郎との再会。「人か魚か分らぬ女だ、そのウロコをはがさぬ限り、その女は人には戻らぬ」そう記したメモと共に、残された「泥の約束」の先に二郎が見つめる一点は、海で拾われ、人魚と呼ばれ名を捨てた少女が、ウロコの奥に封じた過去の鍵……。

「見えるよ、この眼には……今、腰の辺りで光ったお前の鱗一枚が――」

義眼と肉眼の間に映った一片の、はがされた傷跡の上、帰る海をなくした人魚に朽ちない鱗が舞い降りる。

## 「諫早湾はどうでしょう」 久保井 研

その年の夏、取材旅行から戻った座長は今までになく落胆した素振りだ。二〇〇二年のことだ。春秋と紅テントを抱いて芝居を打つ間、何か戯曲ネタになる予感はないかとふらりと旅に出る。戻ってくる土産品を肴に杯始まる。その地で出会った人、起きたエピソード、見つけた珍妙奇妙な品々。そんな道中を面白可笑しく話をする。我々は話の面白さに引き込まれながらこれそれがとんな筋立て、台詞へと置きかえられていくのか、めいめいが想像し脱稿を待つ。それはとても楽しい時間であった。

「スカだった。何もなし、空振りだった。座長はそう言った。その年は日本海に面する漁港町へと出かけていた。港では昔一樣に無口だったという。終つたことをむしろ返されたくない自分の今の立場からでは何も言えないとどつづく島もなかった。そう。思うに「原発」というデリケートな問題もあったのだから。その地で生きる者たちの暮らしぶりを覗き見し、目の当たりにした事柄から妄想の渦をかき立てる。そんな唐十郎の作劇を起爆する装置がなかった。話を聞きながら、側へ問題に行き当たった。対立には、側が存在する。どちらに付くかどちらに付くといひのか。獲得勘定が付きまとう。個人の主義主張は様々だ。まして国なんてハゲキを相手に対立すればオマケ、嘆いあげ

になる。長い物に巻かれる様に商売がえをせまられる。そんな狭間でゆれ動く人間模様を書きだしたかたのだから。

そんな会話もひと息ついたころ、「またどこか探しに行くよ」。座長は笑って冷たいグラスをまぶたの上に押し当てた。思わず我々劇団員はこう言った。「諫早湾はどうでしょう？」一九九七年有明海諫早湾は外海から閉ざされた。干拓地を造成し、高潮などの水害を防ぐ目的の潮受堤防。最後の閉門は全長七キロに及び鉄板が縞々と落ちていくシロキنگな映像とともに報じられた。有明海の干潮満潮の潮差は五メートル。国内最大。紅テントもすぼまりと沈む。七キロ先へと続く遠浅の干潟には固有種も多く、ご存じムシゴロウやエイリアンのこときうラスボなどのハセ類、有明のりや寿司屋で平貝と呼ばれるタイラキなど豊富な水揚げがあった。しかし閉門以後、それらは大きく減少した。国を相手に閉門を要求する漁業関係者閉門により農地への塩害を危惧する営農者。両者の対立は最高裁へもつれ込み、昨年三月、閉門しないことで判決が確定した。

空振りに終つた取材旅行から半月後。秋公演の舞台も始まりしばらく経つたある日、座長は諫早に向かった。そしてたくさんの土産品とベトナムのタイラキの貝殻を二枚持つて帰京した。

作=唐十郎  
演出=久保井研+唐十郎

【登場人物】

- 浦上螢……………海の町を去つて今は都会の隅にあるブリキ加工店で暮らす
- 伊藤静雄……………まだら采の詩人でブリキ店の店主
- 腰田……………静雄の町の女性ヘルパー
- 高田……………その同僚
- 立ち食いそば屋の主人……………ウドンをのりうらみ、目を光らす
- 侍子……………そのそば屋の女店員で、静雄のつくる詩を待つ
- 踏屋(夜)……………調査専門プロローガー。人の隠す影を踏み
- ガニ……………ガニ股の踏屋の部下
- しらない二郎……………詩人静雄の元弟子。長崎の「しやば漁港」では螢とも共に働いた。その前は、踏屋と仕事を取合う前歴あり
- やすみ……………しやば漁港から螢をさがして上京してきた娘。少女時代、ガニさんという漁師に海で助けられ、その養女となる。海に漂う前は、樺という名でもあった
- 月影小夜子……………月の裏側に熟知しているとたまわる女性。しらない二郎を長崎に使いに行かした……。とある会社の秘書室長
- 夕ちゃん……………螢の友。ガニさんの下で働き、鯉のぼり店を転々としながら上京。
- 天ちゃん……………陸の労働で、今はガニさんを支える
- 草ちゃん……………体調をくずしたガニさんに従い世話をする
- 魚主……………暗さに乗じる闇夜船の船長。酒乱で、やすみの少女時代、樺とも関わりあり
- ガニの部下……………ブリキの板を運ぶ
  - 一……………運びながら「ヘイ、コラー」をうたう
  - 二……………板を頭でポンピングする
- ガニさん……………義眼の海の漁師



【スタッフ】  
 絵=台田佐和子  
 作曲=安保田夫  
 監修=高野温子  
 舞台美術=大鶴美仁音+紅美術団子  
 音響=重村大介  
 照明=福原由加里  
 衣装=加藤野奈  
 舞台監督=藤森宗

【協力】  
 南河内万蔵一庵  
 有限会社マツジユ  
 株式会社half pint  
 東映マネージメント  
 (株)千代田組  
 瀧ノ上元子



稲荷卓央



福原由加里



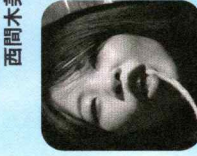
大鶴美仁音



升田愛



西間木美希



金子望乃



高橋直樹



友寄有司



内藤裕敬



久保井研



藤井由紀



加藤野奈



重村大介



藤森宗



岩田陽彦



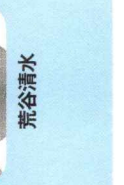
壺阪麻里子



舟山海斗/丹羽駿介



福本雄樹



荒谷清水

# 株式会社 コムパス

映像制作承ります。  
(企業 VTR、舞台映像など)

http://www.compass-co.net

IAC Group IACグループ

# iic

株式会社インター・アート・コミティーズ

- 自動車教習所運営・エージェンツ事業 (旅行代理店業)
- 人材紹介・派遣事業
- フードサービス事業 (レストラン・給食)
- エンタテインメント事業 (音楽関連)

https://www.interart.co.jp

(株)千代田組アパレルブランド **ALIPD** より販売!



今回のポストターの絵をTシャツにしました  
台田佐和子さん絵Tシャツ(白) 3,500円(税込)  
座布団 1,210円(税込)

ご購入は公演当日受付にて!!

(神戸・岡山・長野・5/5、6の花園神社公演に出演決定)